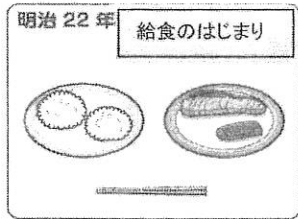


給食の歴史を知ろう

(1月24日～30日)

全国学校給食週間

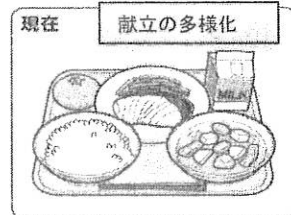
毎年、1月24日から30日までの1週間は、「全国学校給食週間」と定められています。第二次世界大戦が終わったとき、日本は食糧不足でした。そこで、世界中の人たちの援助によって、途絶えていた学校給食が昭和21年12月24日に再開されました。冬休みに重ならない1月24日から30日を「全国学校給食週間」としています。この機会に給食や食べることについて考えてみましょう。



明治22年 給食のはじまり
山形県の私立小学校で、貧困児童を対象に行われたのがはじまりです。



昭和20年 戦後、学校給食の再開
ユニセフなどから子どもたちの給食に、小麦粉と脱脂粉乳が送られ、給食が再開しました。



現在 献立の多様化
地場産物の活用をすすめ、郷土料理や伝統料理も積極的に取り入れています。

残量調査（平均値）の結果を報告します。

11/13(月)～11/17(金)の1週間、小学校3・4年生と中学校(全学年)を対象に、残量調査を行いました。結果は、南部調理場17校の平均値です。結果については今後の給食献立の参考にし、味付け等工夫していきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

牛乳は寒い時期にもかかわらず、頑張って飲んでいました。ごはんや野菜を使ったおかず、汁物の残量が目立ちました。ごはんやパンなどの主食は脳や体にエネルギーを届けます。野菜はビタミン類が豊富で、風邪予防にも効果があります。冬を元気に過ごすためにも、野菜を食べましょう。

残量(%)

